

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第19号

発行・編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部
連絡先 090-88882-5537

事務連絡（高札場）

☆ 四月例会

日時 4月14日(土)
午前10時
場所 柏原住民センター
会場準備は役員で行います。

☆ 30年度の継続会員及び新加入

会員(17名)
29年度からの継続会員は32名、
4名の方が、退休会されました。
荻野 雄一郎様
足立 幸子様
蘆田 榛五様
山内 順子様
いずれも、長年にわたり共に学ん
できた方々で残念です。

個々に退休理由は異なります
が、いずれのお方も古文書への情熱
を持ち続けておられます。

皆様方も、様々な機会に交誼を
結んでいただく様、お願い致します。
30年度の新加入予定者は、現在の
ところ、次の5名の皆さんです。

- 山地 美信(よしのぶ)様 中南町
- 三浦 仁志(ひとし)様 春日町
- 村上 寛章(みつあき)様 中南町
- 瀬川 正信(まさのぶ)様 中南町
- 谷後 志朗(しろう)様 篠山市

情報提供（みちこるべ）

☆ 歴史 TAKE DA

現在、30年度の計画立案中、この
事です。
詳細が決まりましたら、また広報
させていただきます。

☆ 第6回歴史 T A M B A

主催 柏原自治協議会
会場 たんば黎明館
3月23日(金) 10時半～12時
講師 内藤正克氏 内藤克雄氏のご
子息) テーマは 丹波地域の洋風建
築と設計者 内藤克雄
参加費300円、申込先柏原自治協
議会(0795730198)

☆ 地域歴史遺産と現代社会(地域)

域)への基礎知識 1)出版!!
本年1月20日に、神戸大学出版会
より、木村修一先生が編者の一人だ
る標記の古文書関連の書物が発
刊されました。

購入は、神戸新聞総合出版センター
の本を扱っている書店で。
定価2,300円+税です。
古文書を学ぶ人は必見の書物、是非、お読みください。

古文書倶楽部29年度の総括

1 事業面

(1) 学習活動 本年度もベテランの
方が多数、休退会された。折角、
身に付けた崩し字の読解力だか
ら、会則第2条の後半に謳われ
る、その成果を次世代に伝える
ために、何らかの形で地域貢献し
て戴ける方法はないものか、と考
える。また、やや出席率が悪かつ
た事について、原因を精査しなけ
ればならないが、交通手段もその
一因だと思われるので、対応策を
検討すべきだと考える。

(2) ファイルドワーク(FW)は、綿密

な打合わせと資料準備等に担当
者が尽力、併せて慧日寺さん側の
協力もあり、外部参加者が会員
参加を上回った事、また、古文書
倶楽部会員が資料作成と講師役
を勤めるなど、画期的な事業展
開ができた。

8月例会は日程的に休会が不
可避なら、茶話会として定例化
しても良いのではないか。

(3) 古文書倶楽部の広報は不十分
だったが、逆に丹波市内の他団体

の情報提供は出来たと思う。
丹波地域において、もう少し丹
波古文書倶楽部の存在感が増す
よう、成果の発信に努めていく必
要があると考ええる。

2 予算面 会員数×5,000円の
収入では、手厚い対応は絶対的に
無理があるが、FWの赤字補てん
に寄付金を仰ぐなど、会計担当
者の涙ぐましい努力もあって、破
綻せずに済んでいる。

新会員確保も絶対的切り札と
はなり得ないだけに、これからも
難しい舵取りが続く事になると
思われる。

3 役員体制 当倶楽部は生涯学習
の観点に立って、会員が自由意思
で参加している事から、役員は主
導者ではなく、会員の世話人
であると云う立場を徹底するた
め、役員の立候補制を重視して
きたわけですが、残念ながら立候
補者がなく、全員が留任する事
となりました。

役員の仕事を均分化するため
に、増員の必要性を訴えたこと
ろ、会員多数の賛同を得て、役員
の増員を図る事とし、役員の方で
人選をして、役員就任を説得し、
深田俊郎様に任務分担を明確に
する条件付きで了承を得まし
た。皆様方の温かい御支援を願
いいたします。

自己紹介(口よ)

◆氷上町 前川 哲和様

古文書クラブ入会の理由

私が古文書クラブに入ったきっかけは、2015年9月に丹波市に開局したコミュニティFMラジオの5たんば「市民パーソナリティを初めたこと」起因します。

歌番組や丹波の話題として「丹波の歴史」のお話を地域の皆さんから取材し、番組として放送しかけたのが始まりで、地元丹波の歴史について改めて興味を持ち図書館で資料を調べたりするようになりました。

今まで神社や古刹、歴史遺産の前を通過していても、子どものごろから見慣れた景色の一部であった歴史的な背景やいわれに興味もな

く過ごしてきてしまいました。何人かの歴史のお話を伺う中で歴史的な背景がつながりを持つようになり、今までは違う視点であらゆるものが見えてきたような感覚を持つことができました。もともと知りた

いという気持ちで古文書を読みたいと思う気持ちに変わり、昨年入会しました。昔の人は本当に達筆で文字も同意語で漢字までも多種をちりばめて書かれていることに芸術を感じ

ます。候文、三行半など定型文、崩し文

字の多様性など古文書特有の文法に慣れるためには暗記も必要ですが、なぜか先人の書かれた毛筆文字に愛着を覚えるのは私だけではないはず。

英語教育も良いですが、もう少し古文書についても学校で習っておけば、地域の財産である歴史遺産や歴史的背景をもっと重んじ、新しい物に流されない古き良きものを大切に

する心が育つたのではないかと、思います。学ぶべきことが多く、遅々として進みませんが、所々、文字がわかりはじめかけて、面白みが増えてきました。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

設立趣意書(勧進帳)

◎兵庫丹波地域古文書調査利活用研究会(仮称)の設立について

会設立の趣旨と講座開設について 個人宅でも、各自治会でも、先祖から伝来した大量の文書類が調査・整理されな

まま、放置されたり廃棄されたり行方不明になったりして古文書類の保存に悩んでいる現状がある。その当時に生きた人々が、後世の人々のために残してくれた文書類は、地域の宝物」とも言えるもので、それを地元の人たち自身で調査整

理保存して、後世に活用できる形で残していく事は、今を生きる我々の果たすべき大きな責務とも言える。

文書類の調査整理保存するための「基礎的技術」を身に付け、データベース化する事で、専門家に解説してもらったり、地元の人たちが様々な用途で活用したりすることも可能となる。

そのような基礎的技術は高度な専門技術ではなく、数度の研修で誰でも習得可能である。

そこで、兵庫丹波地域古文書調査・利活用研究会(略称ひよつたん古文書調査会)（いずれも仮称を有志の手で立上げ、自治会役員や古文書に興味関心のある人々を対象に文書類の調査整理保存するための基礎的「技術」習得を目的とした兵庫丹波地域古文書調査保存技術習得講座(仮称)を開設する。

※丹波古文書倶楽部会員は、又書台帳を作る時に、崩し字がある程度読めることから、文書の表題作りや文書の宛先、作成者名など、文書の内容特定に大きな戦力となる人々である。

あくまで地域貢献のためのボランティアとして、活動する予定です。

会員各位が新組織の会員になつて調査と利活用に参加いただき、皆さまがお持ちのお力を発揮して戴けたら、と思っております。

なお、この会の活動は、まだ何の目

途も立っていませんが、活動資金が必要なため、丹波県民局の補助金申請をするために、受け皿としての新組織の立上げが最も急がれます。

また、専門技術を持った人を講師に依頼する必要から、大学などの専門家や有識者、調査経験のある関係者の御支援も仰ぐ予定です。

※会則やプライバシーポリシー講座の内容構成等の原案はあります。私と一緒に、設立発起人になってくださる方を募集しています。

ご連絡問い合わせは岸孝明まで 以上(文責)岸孝明

編集後記(金棒引き)

ある友人から聞いた恐ろしい話、若い人たちがスマホを長時間使い続ける「スマホ中毒」に陥ると、人の感情や記憶をつかさどる脳内の「海馬」が委縮し、アルツハイマーのような症状が起る。

猟奇的なバラバラ殺人事件や親による児童虐待等が近年多発するのは、「スマホ中毒」が原因と考えられる例がある、というのである。

スマホは、1か0に整数化して物事を切り捨てるデジタルな世界、一方、古文書は、1と0との間に無限に変化する筆運びを判定するアナログ世界、古文書は、やっぱり脳の若返りの妙薬だ!! (岸孝明)